

4-4 港湾・空港

4-4-1 港湾

1 国際競争力の高い港づくり

基本方針

中部圏、名古屋大都市圏¹の産業・経済活動を支える中枢国際港湾として、質の高いサービスを提供する国際競争力の高い港づくりをすすめます。

現状と課題

名古屋港の総取扱貨物量は五大港（東京、横浜、名古屋、大阪、神戸）の中で5年連続して1番になるなど、日本経済を支える中枢国際港湾のひとつとなっています。

今後は国内だけでなく、アジア主要港とのコスト・サービス競争が激化する中で、中部圏の産業・経済活動が持続的に発展するためには、名古屋港において次世代高規格コンテナターミナルの整備、港湾物流システムの効率化、利用コストの低減、構造改革特区の活用など、国際物流の重要拠点として整備していく必要があります。

数値目標

	現状値	18年度目標値	22年度目標値	所管局
外貿コンテナ貨物の年間取扱個数	179万個 (14年)		208万個 (22年)	名古屋港管理組合
数値目標設定の考え方：港湾コンテナ貨物の取扱個数の増加をめざす。				

事業計画

事業名	事業内容	現況（未見込み）	計画目標 [～の事業量等]	所管局
国際港湾機能の強化と効率的で使いやすい港づくり	飛島ふ頭南地区大水深16mコンテナターミナルの整備	整備	整備 [完了1バース 整備中1バース]	名古屋港管理組合
	ふ頭の整備 (飛島ふ頭、稲永ふ頭、鍋田ふ頭)	整備	整備	
	臨港道路の整備 (金城ふ頭、飛島ふ頭、鍋田ふ頭)	整備	整備	
	東航路・西航路の拡幅、増深	整備	整備	

¹ 名古屋大都市圏

経済、社会、文化など、広範な分野で緊密な関係を持つなど、一体的な地域としてとらえられる広域的な圏域であり、名古屋市を中心に、愛知・岐阜・三重県下にまたがるおおよそ半径40～50kmの範囲。

	臨海部の埋立、整備 (弥富ふ頭、飛島ふ頭、ポ ートアイランド、南5区)	整備	整備	
	船舶の入出航にともなう書 類手続きの EDI ² 化、港湾 物流情報のネットワーク化 をはじめとした港湾物流の 情報化を推進	推進	船舶の入出航に ともなう書類手 続きの EDI 化 港湾物流情報プ ラットホーム ³ の構築	
名古屋港産 業ハブ特区 計画 ⁴ の推 進	名古屋港西部地区を中心に 「ロジスティクスハブ」の 形成を推進	推進	総合保税地域 ⁵ の実現	名古屋 港管理 組合
	名古屋港東・南部地区を中 心に「基盤産業ハブ」の形 成を推進	推進	推進	
	特区内において、税関臨時 開庁手数料の軽減など特定 事業を実施	実施	新たな特定事業 の実施	
港湾施設保 安対策 (新規)	港湾の安全確保を目的とし た海上人命安全条約の改正 にともない、監視装置など の保安施設を整備 (17年度完了予定)	整備	完了	名古屋 港管理 組合

² EDI

Electronic Data Interchange の略。異なる組織間で、通信回線を介して情報をコンピュータ間で交換すること。港湾では港湾 EDI システムとして、海運事業者や船舶代理者が港湾管理者・港長に行う申請・届出などの行政手続きの電子情報処理化をすすめている。

³ 港湾物流情報プラットフォーム

船社・荷主および関係行政機関などの官民において、港湾物流情報の交換・共有を可能とする情報基盤システム。

⁴ 名古屋港産業ハブ特区計画

特定の地域において規制改革を先行的に実施するための構造改革特区計画として、平成 15 年 4 月、国から認定された計画。名古屋港の戦略的な活用により、中部地域ものづくり産業の持続的な発展の実現を目的として、ものづくりを物流の高度化で支える拠点としての「ロジスティクスハブ」および臨海部の基盤産業の新展開を支援する拠点としての「基盤産業ハブ」の形成をめざす。

⁵ 総合保税地域

外国貨物の荷捌き・保管・加工・展示等の複合作業を、保税状態(関税や消費税などの支払いを保留した状態)のまま一貫処理できる特定の場所。

2 活力・親しみ・環境と共生する港づくり

基本方針

都市活動との連携をはかりながら、商業・業務機能を集積し、時代に即応した、活力ある港づくり、魅力的なウォーターフロントの形成など、人々でにぎわい、親しまれる港づくり、良好な港湾環境の保全と創造などにより、環境と共生する港づくりをすすめます。

現状と課題

ガーデンふ頭では名古屋港水族館の第2期整備が完了するなど、人々でにぎわい、親しまれる港づくりに取り組むとともに、港湾緑地の整備をすすめてきています。

親水空間の整備、環境と共生する港づくりを着実にすすめるとともに、西名古屋港線の開業を平成16年度に控え、都市再生緊急整備地域に指定された金城ふ頭におけるにぎわいづくり・交流拠点の形成をはかることが課題となっています。

数値目標

	現状値	18年度目標値	22年度目標値	所管局
ガーデンふ頭および金城ふ頭の来港者数	410万人 (14年度)		580万人	住宅都市局 名古屋港管理組合
数値目標設定の考え方：ガーデンふ頭および金城ふ頭の年間来港者数が580万人以上となることをめざす。				

事業計画

事業名	事業内容	現況(未見込み)	計画目標 [~ の事業量等]	所管局
金城ふ頭の開発	商業・娯楽機能などの集積した交流拠点の形成	商業・娯楽施設の誘致 金城ふ頭駅周辺公共施設の実設計	商業・娯楽施設の整備 金城ふ頭駅周辺公共施設の整備 野外ステージの整備	名古屋港管理組合 住宅都市局
ガーデンふ頭および周辺の整備	ガーデンふ頭東地区において、既存倉庫を活用し魅力あふれる交流空間の開発を推進 JR 貨物名古屋港駅跡地を中心とする西倉地区および築地地区の堀川右岸において、民間によるウォーターフロント開発を誘導	検討 誘導	ガーデンふ頭東地区の開発 誘導	名古屋港管理組合 住宅都市局

護岸などの 防災対策	護岸液状化対策、既存岸壁 の耐震化	整備	整備 [完了 大手ふ頭東 整備中 ガーデンふ頭 築地ふ頭西]	名古屋 港管理 組合
	護岸等の改良による高潮対 策	整備	整備 [整備中 汐止・空見ふ 頭 堀川口水門・ 排水機場]	
中川運河の 総合整備	市民に親しまれる水辺空間 の形成をめざし、拠点的に 緑地などを整備	整備	整備 [完了 中川口緑地]	名古屋 港管理 組合 住宅都 市局
港湾緑地の 整備	親しまれる港づくりを推進 するため港湾緑地を整備	整備	整備 [完了 新宝緑地北]	名古屋 港管理 組合
風力発電施 設の整備	南5区に2基の風力発電施 設を設置 (16年度完了予定)	実施設計	整備・完了	名古屋 港管理 組合

4-4-2 空港

1 新交流時代にふさわしい中部国際空港の整備と国際・広域交流の促進

基本方針

2005年(平成17年)の開港をめざし、新交流時代にふさわしい中部国際空港の建設を促進します。

中部国際空港の母都市として、この地域の活力を高め、国際・広域交流を促進する機能の集積をはかります。

現状と課題

2005年(平成17年)2月の開港をめざし、建設は順調にすすんでいます。

中部国際空港の母都市である本市の国際・広域交流都市としての発展に向けて、名古屋から国内・国外各都市への利便性を向上させる必要があります。そのために航空会社などの関係機関に航空路線網の充実・強化をはたらきかけていくことが重要です。

また、中部国際空港の母都市である本市の活力を高めるために、空港機能および都市機能の充実・強化をはかるほか、中部国際空港の開港後、名古屋空港の都市型総合空港としての活用について、愛知県はじめ関係機関と連携をはかりながら、検討・推進していく必要があります。

数値目標

	現状値	18年度目標値	22年度目標値	所管局
中部国際空港の年間航空旅客数	1,057万人 (14年度)	1,210万人 (17年度)	1,430万人	総務局
数値目標設定の考え方： 航空旅客数を増やす。(目標値は中部新国際空港推進調整会議「中部国際空港の計画案(最終まとめ)」による。現状値は名古屋空港の実績。)				
中部国際空港の年間航空貨物量	18万トン (14年度)	32万トン (17年度)	38万トン	総務局
数値目標設定の考え方： 航空貨物量を増やす。(目標値は中部新国際空港推進調整会議「中部国際空港の計画案(最終まとめ)」による。現状値は名古屋空港の実績。)				

事業計画

事業名	事業内容	現況(未見込み)	計画目標 [~ の事業量等]	所管局
中部国際空港の整備促進	将来の航空需要に対応するため、17年2月の開港をめざして中部国際空港の整備を促進	用地造成完了 施設建設	開港	総務局
航空路線網の充実・強化	航空会社などの関係機関にはたらきかけて、航空路線網を充実・強化	推進	推進	総務局

来訪者をもてなす都市機能の充実	空港を活用し、母都市として旅客増進、アクセスの整備、産業振興などをはかることにより、都市活力を向上	推進	推進	総務局 はじめ関係局
名古屋空港の有効活用	中部国際空港の開港後における名古屋空港の活用について、愛知県はじめ関係機関と連携をはかりながら、検討・推進	検討	推進	総務局

2 利便性が高いアクセスの整備

基本方針

利用しやすい中部国際空港とするため、利便性が高いアクセスの整備をすすめます。

現状と課題

中部国際空港開港前の開業をめざし、中部国際空港連絡鉄道の建設は順調にすすんでいます。

中部国際空港から本市への利便性の高いアクセスを確保し、活性化につなげるため、引き続き中部国際空港連絡鉄道の建設を促進するとともに、名古屋駅・金山駅における乗り継ぎの利便性の向上をはかる必要があります。

数値目標

	現状値	18年度目標値	22年度目標値	所管局
中部国際空港への所要時間 (鉄道)		28分 (16年度)	28分	総務局
数値目標設定の考え方：新名古屋駅 空港駅間の所要時間(特急)				

事業計画

事業名	事業内容	現況(未見込み)	計画目標 [~ の事業量等]	所管局
鉄道アクセスの整備促進	名鉄常滑線常滑駅と中部国際空港を結ぶ中部国際空港連絡鉄道の建設を促進	建設	開業	総務局 はじめ 関係局
	関係機関と連携をはかりながら、名古屋駅・金山駅における乗り継ぎの利便性の向上を推進	推進	推進	
	将来の航空需要動向などを考慮しながら、空港へのアクセス路線としての西名古屋港線の延伸に関する調査・検討を実施	調査	調査	